



Yokohama Arts Foundation

令和3年1月13日
(公財)横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリーあざみ野

デジタルネイティブ世代の7名の若手写真家を通じて、現代の写真表現の可能性を探る。
あざみ野フォト・アニュアル とどまってみえるもの

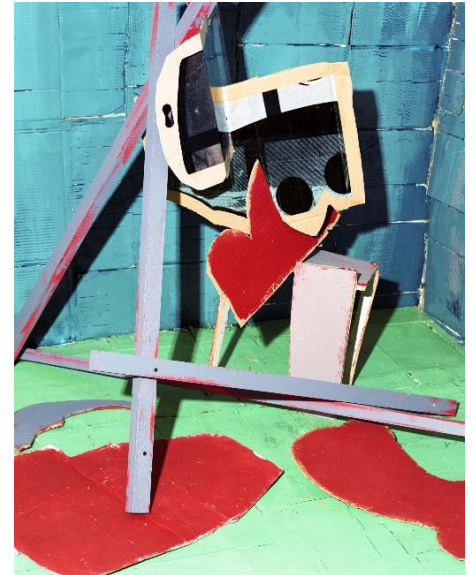


**常態ではない事態における表現の在り様とは、
写真表現の可能性について探る**

2000年以降、写真表現はデジタル技術の進歩やオンラインネットワークの普及によって、新たな可能性を示してきました。そして2020年、コロナ禍において外出が制限されるなどの条件下、その表現形態にも新たな側面を見せつつあります。4月に緊急事態宣言が出され、人々は移動を制限され、多くがその影響を受けるなか、外界の世界をモチーフとする写真家へも様々な影響を及ぼしました。写真を学ぶ学生たちも、自宅から出ないで写真を撮ることを余儀なくされ、“家の中で何かを撮れ”という新たな課題が課せられたのもその一例です。

現代の写真表現を紹介するシリーズ「あざみ野フォト・アニュアル」2020年度の企画展では、写真の在り様を拡張し続けている宇田川直寛、川島崇志、木原結花、チバガク、新居上実、平本成海、吉田志穂の7人の若手作家を紹介しながら、こうした状況下における写真表現の可能性について探ります。

写真という表現手段、媒体は、その誕生(1839年)以降、写真でしか出来ない表現を追求し、モダニズムの文脈の中で、その存在理由を示そうとしてきました。一方、今日では、テクノロジーの日進月歩によって、益々その表現の幅を広げることで、写真表現の独自性を集約することすら不可能な時代に入っているのもまた事実ではないでしょうか。コロナ禍という例外的な状況は一つの契機に過ぎないとは言え、表現者に様々なレベルで影響を与え、そして今、この瞬間も変化を強めています。本展を通じて、生活様式も活動も変容を迫られた写真家たちが今どのように写真表現に向き合っているかをご覧ください。



宇田川直寛 / Backward Walking Problem (後ろ歩き問題)
シリーズより / 2020 / インクジェットプリント

開催概要

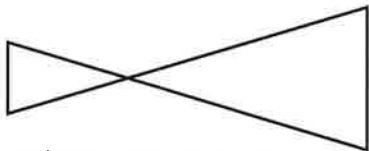
- 【展覧会名】 あざみ野フォト・アニュアル とどまってみえるもの
- 【会 期】 令和3年1月23日(土)～2月14日(日) 10:00-18:00 ※1月25日(月)休館日
- 【会 場】 横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室1
- 【出品作家】 宇田川直寛、川島崇志、木原結花、チバガク、新居上実、平本成海、吉田志穂
- 【コ・キュレーター】 菅沼比呂志
- 【料 金】 入場無料
- 【主 催】 横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
- 【協 力】 城西国際大学メディア学部、東京工芸大学芸術学部写真学科、日本写真芸術専門学校、PGI、武蔵野美術大学、ユミコチバアソシエイツ

会期中は、アーティストトーク他関連イベントを開催します。詳細は添付チラシ、またはホームページ (<https://artazamino.jp/event/azamino-photo-20200214/>) をご覧ください。

※ぜひ当事業の取材、情報掲載をお願い申し上げます。
取材の際は、事前にご一報ください。広報用画像の提供が可能です。

お問い合わせ先 *本日は17:30まで在席しております。

横浜市民ギャラリーあざみ野 【公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団】
館長 森井健太郎 担当 佐藤直子、日比谷安希子 TEL : 045-910-5656



あざみ野 フォト・アニュアル

とどまっ みえるもの

2021年1月23日(土) - 2月14日(日)

横浜市民ギャラリーあざみ野

展示室1

開場時間 = 10:00 - 18:00

休館日 = 1月25日(月)

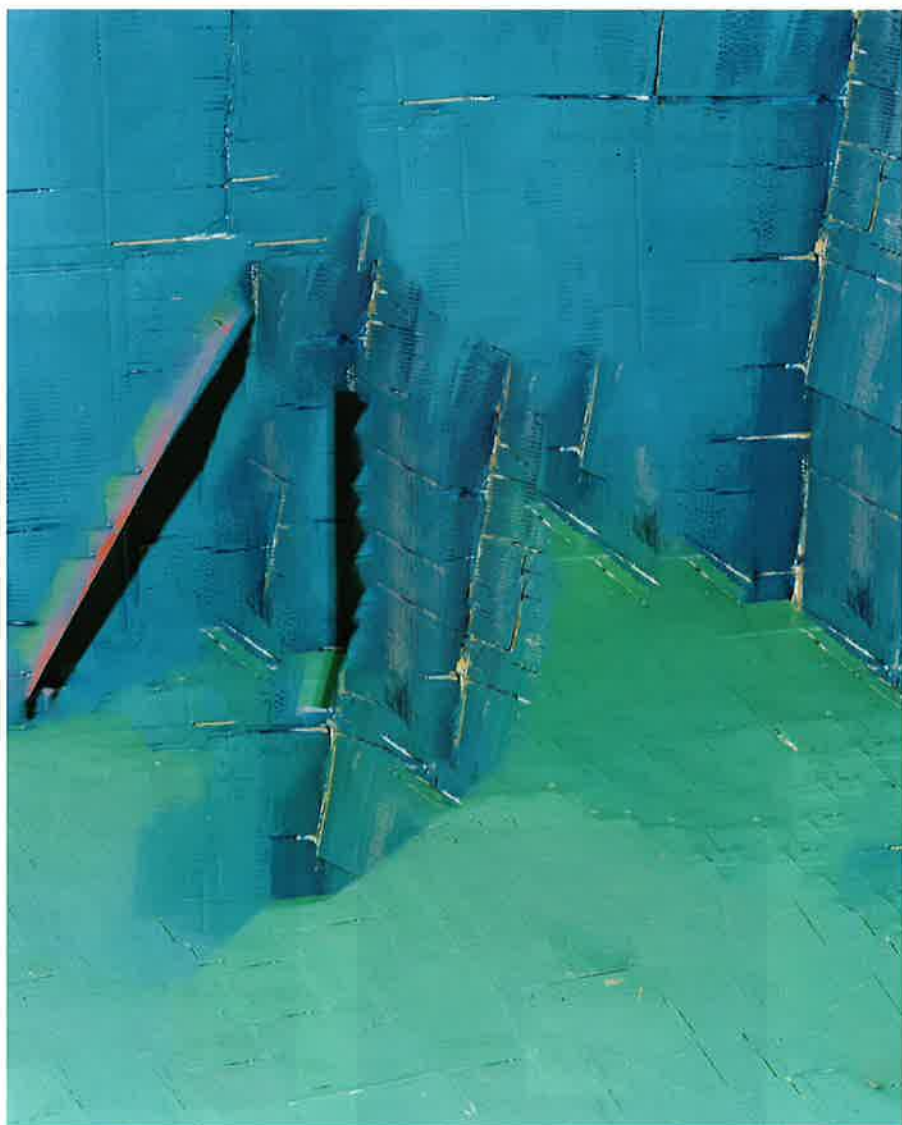
入場無料

主催 = 横浜市民ギャラリーあざみ野 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

協力 = 城西国際大学メディア学部、東京工芸大学芸術学部写真学科、

日本写真芸術専門学校、PGI、武蔵野美術大学、ユミコチバアソシエイツ

吉田志穂	平本成海	新居上実	チバガク	木原結花	川島崇志	宇田川直寛
------	------	------	------	------	------	-------



宇田川直寛 「Backward Walking Problem (後る歩き問題)」シリーズより 2020

コ・キュレーター | 菅沼比呂志

関連イベント

●クロストーク#1

日時=1月23日⊕ 14:00-16:30

出演=木原結花、チバガク、平本成海、吉田志穂

●クロストーク#2

日時=1月30日⊕ 14:00-16:30

出演=宇田川直寛、川島崇志、新居上実

聞き手=菅沼比呂志(コ・キュレーター)、
天野太郎(横浜市民ギャラリーあざみ野野首席学芸員)

会場=3階 アトリエ

定員=各35名程度

※参加無料、要事前申込(先着順)

※保育あり(詳細はお問合せください)

イベントのお申込方法

「ホームページの申込みフォーム」

「直接来館(アートフォーラムあざみ野2階事務室)」

のいずれかでお申込みください。

複数のプログラムに参加ご希望の方は、お手数ですが別々にお申込みください。

提供された個人情報は今回の事業実施のためだけに使用し、その他の目的で使用することはありません。

【同時開催】

横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展「写真とプリント」

【お問合せ】

横浜市民ギャラリーあざみ野

(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

〒225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内

TEL 045-910-5656 FAX 045-910-5674

<https://artazamino.jp/>

E-mail: info@artazamino.jp

twitter ID: @artazamino

【交通】

東急田園都市線「あざみ野駅」東口より徒歩5分

横浜市営地下鉄「あざみ野駅」1・2番出口より徒歩5分

駐車場27台(有料・予約制) TEL 045-914-5910

※詳細な地図や設備はこちらから <https://artazamino.jp/barrierfree>

※ご来館の際は、当館ホームページなどで最新情報をご確認ください。



2000年以降、写真表現はデジタル技術の進歩やオンラインネットワークの普及によって、新たな可能性を示してきました。そして2020年、コロナ禍において外出が制限されるなどの条件下、その表現形態にも新たな側面を見せつつあります。4月に緊急事態宣言が出され、人々は移動を制限され、多くがその影響を受けるなか、外界の世界をモチーフとする写真家へも様々な影響を及ぼしました。写真を学ぶ学生たちも、自宅から出ないで写真を撮ることを余儀なくされ、「家の中で何かを撮れ」という新たな課題が課せられたのもその一例です。

現代の写真表現を紹介するシリーズ「あざみ野フォト・アニマル」2020年度の企画展では、写真の在り様を拡張し続けている宇田川直寛、川島崇志、木原結花、チバガク、新居上実、平本成海、吉田志穂の7人の若手作家を紹介しながら、こうした状況下における写真表現の可能性について探ります。

写真という表現手段、媒体は、その誕生(1839年)以降、写真でしか出来ない表現を追求し、モダニズムの文脈の中で、その存在理由を示そうとしてきました。一方、今日では、テクノロジーの日進月歩によって、益々その表現の幅を広げることで、写真表現の独自性を集約することすら不可能な時代に入っているのもまた事実ではないでしょうか。コロナ禍という例外的な状況は一つの契機に過ぎないとは言え、表現者に様々なレベルで影響を与え、そして今、この瞬間も変化を強いています。本展を通じて、常態ではない事態における表現の在り様を覗いていただければ幸いです。



チバガク study (m, g-itbd) 2019



川島崇志 A Crater Lake #001
「描きかけの地誌/蒐集シリーズ」より 2015



木原結花 行旅死亡人 2019



平本成海 H01516 2020



宇田川直寛 「Backward Walking Problem
(後ろ歩き問題)」シリーズより 2020



新居上実 untitled 2020



吉田志穂 測量 | 山 2020